

おかしな歳時記

宮崎神社「お当大根」とうだいこん

— 今に残る当(頭)屋祭祀その① —

明見町の宮崎神社では、当(頭)屋祭祀の「お当神事」が現在も続けられています。

「お当神事」とは旧暦十一月一日(平成二十一年は十一月二日に実施)に行う神迎え神事のことです。その時に神供する大根の味噌煮を「お当大根」といいます。この「お当大根」を準備する任に当たることを「お当(頭)」と呼ぶそうです。大当(オオトウ)・小当(コトウ)と呼ばれ、籤引きによって一年交替の役の者が「当屋」となり、行事全てに責任を持ち務めています。

「お当大根」の準備は、当年の社守二名とその家族、及び前年の社守二名とその家族が手伝いとして、およそ八名で三日間かけて行われます。大根の皮をむき、首と尾の部分は切り落とし、胴の部分に竹製の尺を当て五寸(一五七)の大きさに輪切りして揃え、例年二〇〇〜二五〇切を用意します。この作業は、主に女性が行います。「お当神事」前日からいよいよ大根の調理が始まります。六時間ほどかけて水者を行い、午後三時頃より、味噌仕立ての調味液を入れて、一晚煮込み続けます。その晩、社守らは集会所で

泊まり、火の番と共に、神饌の一つ「おシロジロ」を準備します。

神迎え当日は、午前六時から神事が開始されるため、暗いうちから準備が始まります。竹杖をもった総代長が



味噌での煮込み風景

宮司、白装束に着替えた社守らを先導し、鳥居をくぐり、拜殿に着くと、神事が始まります。大根は神事終了時間を計らい、薪をくべて温め直します。神事も終了すると、直会(神酒・神饌を下げて酒食する)が始まります。「一本くれ!」「太いやつをくれ!」など次々と大根のおかわりがあります。直会も一段落した頃、次のお当を決める籤引きが行われます。

形こそ変化をしていますが、いまでも当(頭)屋祭祀が存続されている地域の伝統、風土に驚きと力強さを感じました。いつまでも残りたい地域のパワーの一つです。

図書館交流プラザ岡崎むかし館主任専門員

野本 欽也

「よくわかま」病気の話

小児における新型インフルエンザ

— ワクチン接種のすすめ —

2009年4月にメキシコに始まった新型インフルエンザは、8月から日本でも大きな流行をみました。岡崎市でも9月から高校生を中心に流行し、小中学生へと広がっていきましました。2010年の春になり、ようやく落ち着きました。

季節性インフルエンザとの大きな違いは、比較的年齢の高い子どもにも流行したことです。肺炎により呼吸困難になる子どもが多かったことでした。東海小児神経研究会のまとめたデータでは、新型が季節性に比べて、重症のインフルエンザ脳症を発生しやすいということがありませんでした。今回の新型は、肺への影響は強いのですが、脳への影響は季節性と同じぐらいのようです。

この冬も新型が流行するかどうかは、専門家の間でも意見が

分かれています。インフルエンザを流行させないために、まずは、ワクチンを接種することが大切です。昨年のインフルエンザワクチンは、新型を別に接種する必要がありました。今年、ワクチンには新型も入っていますので、いつもどおりの接種をすれば大丈夫です。かかりつけの先生と相談の上、接種してください。

インフルエンザは、ワクチンだけで完全に予防することはできませんから、手洗い・うがいなどをしっかり行い、予防に努めてください。

岡崎市民病院 小児科
神経感染症部長 辻 健史

市民病院を受診する際は「かかりつけ医」の紹介状をお持ちください。